

# プレス・リリース

## 大浦湾チリビシのアオサンゴ群集 10~11月で白化が半減、現在ほぼ回復している

沖縄「大浦湾チリビシのアオサンゴ群集」の2009年夏に起こった白化現象について、2009年10月10日~12日、日本自然保護協会、沖縄リーフチェック研究会、すなっくスナフキンによる現地潜水調査を実施した。アオサンゴ群集にメジャーを引き0.5mおきに観察した調査ポイントのアオサンゴうち、45.7%が白化していたことを明らかにしてきた（2009年11月25日発表）。

その後、モニタリング調査を続けてきた結果、3、4ヶ月でほぼ回復していることがわかった。

○ポイントサンプリング法による調査結果（10月12日、11月30日）のうち、基準のモニタリングラインだけを比較すると、1ヶ月で白化率が半減し回復傾向にあった。

10月白化率33.3% →11月白化率15.8%

○定点観察エリアのアオサンゴ樹枝状部にマーキングして月1回程度、観察記録した。その結果、白化していたものでも、徐々に回復し、1月調査時にはほぼ100%回復していた。

○2008年5月から珪藻類の付着が観察されてきたが、白化の回復にともない減少している。

サンゴに共生している褐虫藻が減少して白化がおきたが、何かしらのストレス状況が改善したことにより褐虫藻が戻り、正常な状態のアオサンゴに回復していると考えられる。短期間で回復したことはチリビシのアオサンゴ群集、大浦湾海域の自然がもつポテンシャル(豊かさ)が失われていないことの表れともいえるだろう。

このようなアオサンゴの白化現象をモニタリングした調査報告、珪藻類の付着と白化現象の研究例は今までになく、今後も、継続的なモニタリング活動を続け、珪藻類や海水温などとの関係から、大規模な白化現象を引き起こした原因などを明らかにし、保全策に役立てていきたい。

なお、3月14日にポイントサンプリング調査を予定している。また、この白化現象からの回復も含め、大浦湾の海生生物を観察・記録してきた「すなっくスナフキン」による写真展が開催されている。

### <ワッター海の写真展 大浦湾の生きものたち 巡回展>

ダイビングチーム すなっくスナフキン (代表 西平 伸)

【開催期間】2010年2月9日(火)~2月14日(日)

【会場】沖縄県立博物館・美術館 県民ギャラリー3 ※入場無料

火~木・日 9:00~18:00 金・土 9:00~20:00 那覇市おもろまち3-1-1 TEL: 098-941-1321

### <問合せ先>

日本自然保護協会 保護プロジェクト部 大野正人